



「むすびば」—歴史・自然・人々をつなぐ場所—

テーマ1.4 海から見える島のシンボル
 地域産材の木で作られた天井は島のシンボルとなり、来訪者を優しく迎え入れる島の玄関口に相応しい建物となります。



テーマ1 島の風景や歴史に呼応する建築

島の豊かな自然がつくる「おおらかな風景」や、出雲大社分院のような「島の歴史」に呼応する建築を提案します。島の風景や歴史と呼吸することによって、隠岐の島にしかない体験と風景をつくります。

テーマ1 隠岐の要素で現れる新しいシンボル

島に現存する豊かな緑や巨大な岩等の自然の要素を設計に組み込み、島ならではの建物を計画します。自然と人工の中間の様なこの建物は島を取り巻く環境の延長線上にありながらも、新しい賑わいや環境を生む島に根ざした建築となります。



テーマ1.3 参道と内部の活動を緩やかにつなぐ

緩やかに反り上がる屋根は参道側の静的で厳かな雰囲気と、内部側の落ち着いたある憩いの場をつくりながらも、両者をグラデュエーションにつなぎます。異なる空間を共存させることで、様々な使い方やつながり方を誘発します。



テーマ1.4 島の素材で出来た屋根が優しく町を照らす
 夜は天井が島に浮かび上がることで、地域産材の魅力を伝えると共に、島民が世界に誇れる建物を目指します。



テーマ1 多様なつながりを持った交流施設



隠岐の島にある様々なつながりの中で本計画を考えていきます。島にあるつながりを育むと共に、新たなつながりを生む交流の場を計画します。
 出雲大社分院から海への通りを再生するとともに、分院の緑が空へとつながる風景をつくります。施設内は、子どもや高齢者、障害者、観光客も含めたすべての人々が利用しやすく、インタラクティブな交流の場をつくります。又、デジタルアーカイブ等を利用し、島の歴史や文化を後世に伝える空間づくりを行い、過去から未来へとつながる交流施設を計画します。

テーマ1.2 参道とのインタラクティブな賑わいをつくる
 参道に対して全面的に内部を可視化し、底を出して半外部をつくることで内外の賑わいがインタラクティブしていくような関係性をつくります。



テーマ1.2 出雲大社分院との調和を図り一体的な場所をつくる / 建物を構成するデザインコード

大社分院の豊かな緑を参道や交流施設へと連続させ、緑が町に広がっていくような風景をつくります。一体的に緑が広がるエリアをつくることで大社分院の厳かな雰囲気を保ちつつも、人々がゆるやかに集える静的な交流のエリアを生みます。又、分院がもつデザインコードを踏襲し、設計に落とし込むことにより、分院との一体性をより高めます。



大社分院の屋根の反りと共鳴するデザインとし、調和を図ります。



テーマ2 「島のリビング」のような場所
 全世代が気軽に利用出来る環境をつくり、ここに来れば誰かがいると思えるリビングの様な暖かい場所づくりを目指します。



テーマ1 分院の緑が海や空につながる風景をつくる

海側から訪れた人々が大社分院を遠くからでも望めるよう、敷地の北側をセットバックし、景観に配慮した計画とします。又、セットバックしたスペースには樹木を配置し、格式高い参道をつくります。



屋根の西側は分院の屋根と連続するよう高さを抑え、東側は西郷湾や周りの山々につながるおおらかな屋根をつくります。



テーマ1 分院の緑が海や空につながる風景をつくる
 分院がはぐくんできた海との関係を再構成するように、緑が空へとつながり、その先に海へとつながる風景を作ります。



テーマ2 すべての人が快適に利用できる施設

子供から高齢者まで誰もが利用可能な交流スペースを一部1階に配置し、島のにぎわいが直接まちへとつながる計画としています。設計段階でフリースペースを1階へ移動し、交流スペースを全て2階で管理する等、管理面とのバランスを考慮し、柔軟に設計を行っていきます。



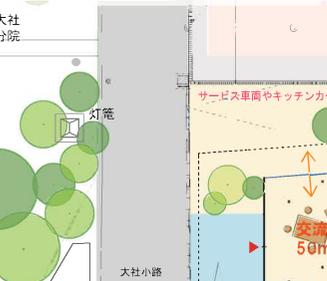
テーマ1 出雲の空へと繋がるおおらかな屋根

緑系と白系のタイルを組み合わせ、空へとつながるグラデュエーションの屋根をつくります。この屋根は出雲の空にいる神々への敬意を表すとともに、隠岐の豊かな自然が空へと続いていく様を表現しています。又、屋根は塩害の影響を受けない磁器質タイルの使用を検討します。



テーマ1 気軽に利用できる交流スペース

誰もが利用できる交流スペースを1階に設けることで、参道への賑わいを創出し、発信します。人々が集う空間が、これから新しい風景として参道を彩ります。



高齢者と身障者に優しい配置計画



テーマ4 塩害対策

長期的な施設管理を視野に徹底した塩害対策等を行っています。

- ・**シール接着工法**
塩害対策として、ガラスシフによるサンシールドを施工いたします。
- ・**光触媒ガラス**
紫外線のある地域がガラスコーティングの採用を検討し、日々のメンテナンス不要の効果を期待します。
- ・**塩害対策を考慮した仕上げ選定**
塩害の被害を軽減していくためとして、床材/屋根タイルや外壁/コンクリートを選定します。

フレキシブルに利用できる屋外スペース

キッチンカーやポップアップショップの出店形態と様々な出店形態に対応できる屋外スペースを計画します。



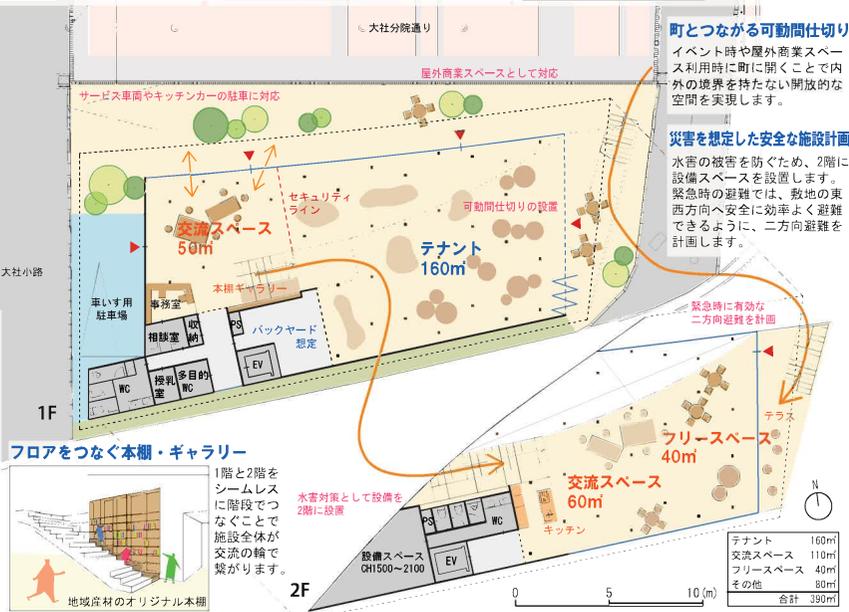
アクセスしやすい施設計画

様々な目的で施設に訪れる人を想定し、テナントの視認性確保と、それぞれの機能にアクセスしやすいエントランスを配置します。



町とつながる可動間仕切り
イベント時や屋外商業スペース利用時に町に開くことで内外の境界を持たない開放的な空間を実現します。

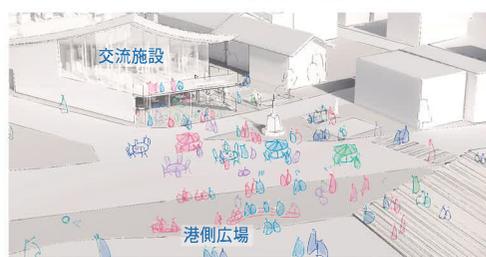
災害を想定した安全な施設計画
水害の被害を防ぐため、2階に設備スペースを設置します。緊急時の避難では、敷地の東西方向へ安全に効率よく避難できるように、二方向避難を計画します。



テナント	160㎡
交流スペース	110㎡
リーススペース	40㎡
その他	40㎡
合計	390㎡

テーマ2 町との多様なつながりを生む交流施設

1階の港側の可動間仕切りを開放することで、港側の広場と一体的な賑わいをつくります。一部道路を封鎖することによって、マルシェやマラソン等の大規模イベントの際にも使用することが可能です。



テーマ4 地域産材を活用し島ならではの建物をつくる

構材材、仕上材、造作家具に「磯之杉」「来待石」等、島の素材を最大限活用し、地域産業に貢献する施設を計画します。島のものを活用し、島の人たちと造り上げ、世代を超えて島民に愛される建物を目指します。

テーマ3 ワークショップを通し、世界に誇れる建物をつくる

町民、管理、運営事業者とのワークショップを通し、直接対話を重ねることで、利用者が心から島外へと誇れる建物をつくりあげたいと考えています。フレキシビリティの高い空間性を活かし、スペースの具体的な使い方やサイン計画等を共に計画していくことが可能です。

実現性 ゆとりを持たせた計画

工事費予算の4億円(税込)に対してゆとりを持たせた工事費を設定し、世の中の経済状況の中で突然発生しうる物価上昇等にも対応した計画とします。又、設計フェーズごとに積算を行う等、常に徹底したコスト管理を行っています。

テーマ3 拠点を構える

設計を行っていく上で現地に拠点を構え、本計画の担当職員や島民、民間事業者と近い距離で対話を重ねながら設計が進められるような体制をつくりたい。又、設計中も島の雰囲気、島民の生活、島に現存する豊かな自然等をリサーチし、設計に反映することによって、より隠岐の島に根ざした建築を目指して設計を行っています。

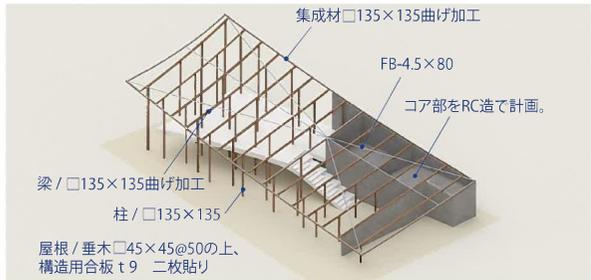
テーマ3 柔軟で明確なサイン計画 / 島の情報になる木

施設を利用する方にとって明確なサイン計画を提案します。ランダムに配置された柱によって高さや位置に制限されないため、テナントの入れ替えや、内部のレイアウト変更にも柔軟に対応することが可能です。又、ワークショップの際にも島民や民間事業者と共に考えていくことが可能です。柱には地域の子供達の作品、島の歴史をアーカイブ化したデジタル機器、イベントのチラシ等が設置でき、島の情報を発信する場をつくりたい。



テーマ2 構造計画

水平力を支持するRCコアと木造のハイブリッド構造により、のびやかな屋根を実現します。屋根形状に合わせた集成材による梁を1800mmピッチで配置することで、ランダムな柱が立ち並ぶ空間を生み出します。



テーマ3 民間商業事業の将来的な計画を見据えた設計

民間商業事業者と協働し、将来的な計画を見据えた事業内容を実装できる施設づくりを事業者との対話を重ね、設計を行っていきます。

1年目	2年目	3年目	4年目	5年目以降
初期フェーズ		発展フェーズ		成熟フェーズ
地域ニーズの把握と利用データの収集(3年目以降: 収集したデータに基づくサービス改善)				
<ul style="list-style-type: none"> 施設の運営体制の確立 カフェ、物販等、民間商業事業の運営体制の確立 		<ul style="list-style-type: none"> ■地元の要素と連携したプログラムの展開 ■隠岐の海産物を活用したメニュー開発 →地元漁師との連携「朝搾れ」メニューの提供 →料理教室やワークショップへの展開 ・新規プログラムの試験的導入 ・地域団体との連携強化 ■伝統工芸体験プログラムの実施 →職人による定期的な実演・体験会 →アーティストインレジデンスの実施 →オリジナル商品の開発・販売ライン確立 ■運営・収支の見直しと新規事業の立案 		



テーマ1.2 1階と2階のにぎわいがシームレスにつながる空間をつくりたい。階段部分にくつろげるスペースを設け、島の工芸品等を展示することができる本棚を隣接し、島の歴史を見て触れて学べる場をつくりたい。



テーマ1.2 2階から隠岐の島の海や山々が一望できる場をつくりたい。隠岐の風景を見ながら、全ての利用者が思い思いにくつろげる空間をつくりたい。



テーマ1 空へとつながる屋根は、隠岐の島が持つ豊かな自然と歴史を継承し、新たな物語を紡ぎだす島の新しいランドマークとして、人々の記憶に刻まれる建物を目指します。